

## 愛媛県愛南町で得られたトウガタイカ

高木基裕<sup>1</sup>・吉田海里<sup>2</sup>・吉田航也<sup>2</sup>・吉田匠海<sup>2</sup>・吉田成海<sup>2</sup>・幸崎秀和<sup>3</sup>・小野 汐<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 愛媛大学南予水産研究センター    <sup>2</sup> 愛南町    <sup>3</sup> 愛南漁業協同組合



写真1 *Leachia pacifica* トウガタイカ (TKPM-MO 7310)

### 種の記録

Cranchiidae サメハダホウズキイカ科

*Leachia pacifica* (Issel, 1908)

トウガタイカ (写真1)

標本 徳島県立博物館軟体動物標本 (TKPM-MO) 7310. 1 個体. 外套長 37.2mm.

採集年月日: 2025 年 4 月 5 日. 採集場所: 愛媛県愛南町船越漁港内 (32. 945740N, 132.504896E). 採集方法: 玉網.

### 種の特徴

採集個体の外套膜は薄く半透明で細長い筒状であること、鰭は薄くて横長の楕円形であること、漏斗の軟骨癒着器から直線上に軟骨条があり、外套長の 1/7 に達すること、第Ⅲ腕は特に太くて長いことなどの特徴が奥谷 (2015) のトウガタイカと一致したため、本種と同定した。

### 備考

トウガタイカ成熟個体の外套長は 8cm 前後に至ること (奥谷, 2015) から、本個体は幼イカであると考えられる。本種は太平洋およびインド洋の温・熱帯海域の外洋において、外套長 45mm 未満の標本は水深 100m 以浅で採集されるが、それより大きな標本は水深 30m から 1,800m までで採集される (Young, 1975)。本邦においては太平洋側の高知県室戸岬沖、日本海側の山陰地方沖、および沖縄県石垣島沖などで標本に基づく記録があり (和田・増田, 2013; サイエンスミュ

ージアムネット, <http://science-net.kahaku.go.jp/>, 2025 年 6 月 23 日参照), web 上では駿河湾からの確認情報もある (トウガタイカ (*Leachia pacifica* 属) の稚仔, <https://www7a.biglobe.ne.jp/~say-sea/tougataika.html>, 2025 年 6 月 23 日参照)。本報告の個体は宇和海沿岸域の漁港内の海面に浮遊していたものであり、生時は半透明の外套膜を有していた。四国西南海域において本種の出現記録は見つからず、本報告が標本に基づく初記録となる可能性がある。

### 引用文献

- 奥谷喬司. 2015. 新編世界イカ類図鑑. 東海大学出版部, 神奈川. 246pp.
- 和田年史・増田 修. 2013. 山陰沖日本海における頭足類相. 鳥取県立博物館研究報告, 50:1-43.
- Young RE. 1975. *Leachia pacifica* (Cephalopoda, Teuthoidea): Spawning habitat and function of the brachial photophores. *Pacific Science*, 29: 19-25.

(2025 年 6 月 19 日受付, 2025 年 6 月 30 日公開)

連絡先: 高木基裕 (e-mail: [takagi.motohiro.mc@ehime-u.ac.jp](mailto:takagi.motohiro.mc@ehime-u.ac.jp))

(Motohiro Takagi, Kairi Yoshida, Koya Yoshida, Takumi Yoshida, Narumi Yoshida, Hidekazu Kozaki and Nagisa Ono. 2025. Record of *Leachia pacifica* (Cranchiidae) from Ainan Town, Ehime Prefecture. NS Fieldnote, 25013)